

十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早くきたものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはすかさず牛の背中に乗りました。朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて「わたしが一番！」と名乗りました。牛は二番です。次はトラ…。続いてウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は誰もいないので、あわてて門番を訪ねると「顔を洗って出直して来い」と言われました。猫が顔を洗う仕草をするようになり、ネズミを追いかけるようになったのは、この時からだということです。

今年の干支は酉。由来としては「果実が極限まで熟した状態・酒酔して気の漏れる状態」というもの。さて今年はどうなるのでしょうか。



お正月飾り

- ① 門松…神様をお招きするための目印とされています。
- ② 注連縄…神聖な場所であることを示すものとされています。

このほか、玉飾り、輪飾り、鏡もちなどがあります。これらも新しい年を祝う縁起ものです。玄関や居間に飾ります。新しい年が良い年になるよう、心をこめて飾りたいものです。

あけましておめでとうございます

平成29年が幕を開け、静かな朝を迎えています。ご家族共ども楽しいお正月を過ごされたことと思います。

さて、12月に開催された生活発表会では3歳から5歳の子どもたちが舞台の上で演じる姿にたくさんの温かい拍手をありがとうございました。涙あり、笑いあり、舞台と会場が一体化し、3歳の“見て、みて”と手を振る可愛い姿や、プレッシャーや緊張もある中、ステージで一人ひとりが胸を張って演じる4、5歳の姿に大きな成長を感じました。

最初は自信のなかった劇あそびや遊戯も、回数を重ねるうちに、友だち同士で教えあうなどの姿が見られ「もっと動いた方がいいよ。」とか「しっかり手をのぼそうよ。」などアドバイスする子もいて、クラス全体がひとつになり楽しむ姿に変わっていきました。

年長さんにとっては、保育園生活最後の発表会。どの保護者からも“我が子だけでなくすみれぐみさんみんな、とても素晴らしかったです。”との言葉をいただき、温かいまなざしで多くの人に支えられ育てられていることを改めて実感しました。

子どもの社会力は、生まれてきてからの育ちの過程でついてくる力の事です。自我が芽生え自己主張が出てくる乳児期に、親や保護者にしっかり受け止められることで、人への基本的信頼感も養われてきます。

そんな心の育ちをしているこの子どもたちには、仲間を思いやり共感するやさしさがあります。

お部屋で共に過ごしている生き物もみんな仲間です。3歳のお部屋ではカタツムリさんが殻に閉じこもっているのを発見した子どもたち。家から持ってきた野菜や卵の殻をあげながら“お腹すいとるん？”“生きてるの？”“寒いから寝とるんかね”など心配そうに覗き込む姿がありました。2歳ではお部屋のビオトープのどじょうさんが大きくなり名前をつけることに。子どもたちからは初めは“ピンクちゃんがいい”とか“みっちゃん”など挙がりましたが“すいすいおよぐ”という一人の言葉をきっかけに「すいすいさん」に決まりました。毎日何人か頭をつきあわせては、真剣に見つめています。

共生という言葉があります。これは、「ともに生きる」という意味ですが、今は共生することがとても困難な時代にさしかかっていると思います。学校においては相変わらず、いじめや暴力、不登校などの問題が蓄積していますが、地域社会、家庭、園とが互いに連携を深め、子どもたちに『相手を思いやり共感することの大切さ』をしっかり伝えていかなければと思っています。

ノロウィルスが大流行しています。嘔吐・下痢などの症状が消失しても数週間ウイルスを排泄しているため注意が必要だそうです。

これから寒さが一段と厳しくなります。手洗い・うがいを大切に風邪などひかれませぬように。

段原みみょう保育園 園長

鏡開き



11日(水)は鏡開きの日です。お正月に神様、仏様にお供えた鏡もちを下げて割り、汁物やあられなどにして食べるという風習です。鏡餅には霊魂が宿っていると考えられていたため、包丁で切ることは縁起が悪いとされ、木づちなどでたたいて割ります。また、神様に供えた食べ物には力が備わると考えられ、感謝しながらいただくことによって、無病息災を祈願しています。

園でも健やかな成長を願って11日(水)のおやつに“ぜんざい”をいただきます。

お正月のあそび

古くから伝わるあそびには「楽しく笑うことで厄をはらい、福を招きいれよう」という願いがこめられています。

たこあげ・すごろく・はねつき・カルタなど

子育てメッセージ

見ててね 見てるよ

子どもは、いつでもお父さんやお母さんに、自分を見てほしいもの。でも忙しい毎日、子どもの『見ててね』ということばに、つい、「今、忙しい」と言ってしまいがちです。『見てるよ』とことばを返すだけで、子どもは安心するのです。



お問い合わせ先 南消防署予防課

電話 261-5181

